

## 新型コロナウイルスの意外な影響



「新型コロナウイルス感染症の影響はペンギンにも及んでいる。」この一文を読んで、コロナウイルスは人間以外にも感染が広がっているのかもしれないでしょう。しかし、そうではなく私たちのある行動が原因なのです。「ブラジル北部の沿岸に住むマゼランペンギンの群れの死亡率が上がっており、その原因は、捨てられたマスクをペンギンがエサと間違えて食べているためと見られています。死後、胃の中にN95フェイスマスクが見つかった」と2021年5月に発表された論文で報告されています。詳しいことはまだ分かっていないものの、まだまだマスクの手放せない生活が続きます。道にマスクが落ちているのも以前より見かけることが多くなったように感じます。また飼い犬が落ちていたマスクを誤食してしまいました。という話も聞きます。これも一步間違えば、命を落とす危険があります。

このように使用後のマスクの取り扱いには、感染を広げないという観点からも注意したいですね。（中島）



## ストロー = ヒンメリ



★ヒマラヤ杉に飾ります★

飲み物を飲むときに使われているストロー。1901年（明治34年）岡山県で、摘み取った麦の穂の茎を使った麦わらストローが生産されました。1950年後半頃まで、カフェなどで使用されていました。その後、麦の栽培が減り、紙、プラスチックへと変遷していきましたが、近年プラスチックごみの量は深刻なものとなり、自然破壊や海洋汚染など社会問題になっています。プラスチックストローから紙のストロー、バイオマスストロー、植物の茎からつくられたグラスストロー、チタン、ステンレスなどの金属、洗えるシリコーンストローなどいろいろと考えられています。

北欧のフィンランドでは、麦わらストローからつくられるモバイル、ヒンメリがあります。今は子供でも簡単に作ることができます。「花と緑の広場」では、12月

に赤いストローで作られたヒンメリが、ヒマラヤ杉と管理棟に飾られ、風に揺られ、来園者に楽しまれています。近隣では見ることのできないステキな風景です。一度見に行ってみてください。作ってみたくになります。（大平）



★北欧フィンランドのモバイル（ヒンメリ）★



【花と緑の広場】

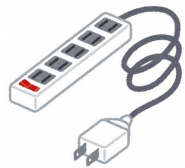
三鷹市牟礼1-11-26

開園時間：午前9時～午後5時

（11～2月は午後4時30分まで）

## できることから 電気と水とフグみ問題

日常生活の中での環境問題への取り組み方について、書籍などを参考に実際にやってみたことをご紹介します。



●電気について：スイッチの付いているケーブルタップの利用で、待機電力が発生しないようにしました（この方法での節電量は、一般家庭では全電力の約2.5%だそうです）。

●水について：お米のとき汁に含まれる窒素やリンは赤潮を引き起こす原因の1つである知り、無洗米にしました。お米をとぐ作業がなくなり、水道使用量の削減にもつなげられました（1回あたりのとき汁は約500mL程度だそうです）。



●プラスチックごみについて：生ごみ用に使用していた小さいビニール袋を新聞紙に変えることで、ビニール袋は不要になり、さらにごみの匂いまで解消できました。また、商品の容器などでは、これまで軽さや便利さからプラスチック製を選んでいましたが、プラスチック部を極力減らしたガラスや金属製のものを選ぶようにしています。



これからも一つずつできることを増やしていこうと考えています。（藤枝）

## 採れたて新鮮夏野菜を使った野菜カレーを子どもたちに

三鷹市及び三鷹市教育委員会とJA東京むさし三鷹支店の3者は、2015年に「学校給食における市内産野菜活用推進に関する協定」を締結し、農家さんと栄養士さんとがタックを組んで、新鮮でおいしい給食を提供するとともに、食育、地産地消、都市農業振興の視点から、市内産野菜のさらなる活用を進めています。



毎年、夏野菜・秋野菜を中心に年2回市立小・中学校全22校と保育園18園の給食で市内産野菜を使用した「三鷹産野菜の日」を実施しており、夏には大人気のカレーに三鷹産野菜を使用し、子どもたちからは大好評でした。定番であるジャガイモやタマネギを始め、古くから市内で積極的に栽培されているトマト・ナス等の果菜類まで、1,700kgを超える地場の農産物が使用されました。

子どもたちは「おいしい！うちの近くの畑でそだてたのかな？」と話しながら味わっていました。その他、栄養士さんも三鷹産野菜の日を「給食だより」にとりあげていただき、ご家族へも「地産地消」の大切さを伝えていただきました。

旬の農畜産物を旬の時期（旬産旬消）子どもたちに味わってもらうため、農家さんも日々努力を重ねております。旬産旬消を行うと環境負荷の大きい食材の輸入や、工場での生産を減らすことができ、いわゆる「エコ」にもつながります。（指田）



### 編集後記

今年は梅雨が長引き、9月に入ってすぐ秋雨前線が停滞し雨が降ったことで夏の暑い時期が非常に短かった気がします。そのため野菜が上手く育たず農家さんが苦労しているという話を伺いました。

これからの「地球温暖化」や、「異常気象」を防ぐためにも、一人一人が今できる小さなことを考えて、始めてみるのが大切なのではないでしょうか。（打矢）

次回の発行は令和4年1月の予定です。

発行：みたか環境活動推進会議  
（愛称 みんなの環境）

連絡先：三鷹市生活環境部環境政策課  
電話：0422-45-1151 内線2525

E-mail：kankyo@city.mitaka.lg.jp

本誌は、市役所、市政窓口、図書館、コミセンや市のHPから入手できます。